## 心に残る道路になるように
### 花いっぱい運動

６月６日、仁賀保地域の国道７号の沿線で花いっぱい運動が行われました。これは、風力発電などの再生可能エネルギー発電事業者からの協力金を財源とした環境美化活動として実施しています。

この日は、17箇所の花壇にマリーゴールドなど７,000本を植栽。金浦、象潟地域の国道７号の沿線にもあわせて約18,000本が植栽されました。

▲暑い日差しのなか植栽作業に精を出す参加者

## いつもの日常に戻ってほしいな
### 人権の花運動

６月４日、院内小学校で人権の花運動が行われました。児童たちが協力して花苗を育て、命の尊さについて学んでもらおうと、毎年、市内小学校で実施しています。この日は、新型コロナウイルス感染予防のためセレモニーは行われませんでしたが、全校児童一人ひとりが１日も早くいつもの日常に戻ってほしいとの想いで135本の日日草を植栽しました。

▲花植えもソーシャルディスタンス！

### 医療用ガウン寄贈

６月10日、市役所象潟庁舎でＴＤＫ㈱から市へ医療用ガウン２,000着が寄贈されました。これは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う医療用ガウンの確保が課題となっていることを受け寄贈されたもので、寄贈されたガウンは市内の医療機関に配布され、万が一の時のために備蓄されます。

◀ガウンを手渡す柳橋部長

### 消毒用アルコール寄贈

５月22日、市役所象潟庁舎で㈱飛良泉本舗から市へ消毒用アルコール100本が寄贈されました。

これは、新型コロナウイルス感染拡大に伴い消毒液の需要が高まっていることを受け、同社が製造したもので、寄贈された消毒液は、市内の高齢者施設をはじめ多くの施設で大切に使われます。

◀消毒液を手渡す齋藤専務

### 総合的な探究の時間

６月11日、仁賀保高校で市職員と地域おこし協力隊によるによる講話が行われました。

講話では、市が抱える問題とそれに対する取り組みや市の魅力について話しがあり、受講した１年生の生徒たちは、にかほ市について改めて学び、考えを深める時間となりました。

◀真剣に受講する生徒

### 交通安全ベストと帽子寄贈

５月22日、金浦公民館でＪＡ秋田しんせい農業協同組合から市教育委員会へ交通安全ベスト８着と帽子８個が寄贈されました。

これは、地域貢献活動の一環として寄贈されたもので、寄贈されたベストと帽子は、児童の登下校の交通安全のため学校およびＰＴＡ等で活用されます。

◀ベストと帽子手渡す兼松常務理事



千客万来 にか本舗

広報で伝える市内店舗の魅力〈商工会加盟店の紹介と人気商品の読者プレゼントコーナー〉

# 千客万来 にか本舗

## 第13回 永田屋

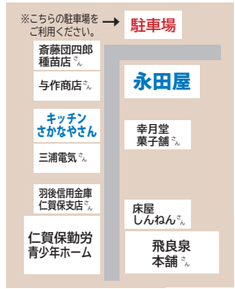
毎度たくさんのご応募ありがとうございます。今回のにか本舗は平沢中町に店舗を構える永田屋さんを紹介します。

創業は嘉永年間（江戸時代後期）とされ、今のようにパッケージ化してからは店主・永田巖さんが３代目となります。看板商品のハタハタすしは、主に９月から冬にかけて製造されますが、店頭販売や発送など年中取り扱っています。また、永田さん自ら仲買人として仕入れた鮮魚などは筋向いの支店キッチンさかなやさんで小売りを行っていて、週末には県外からも馴染みの客が鮮魚などを買い求めに来るなどとても人気があります。

全国展開しているハタハタすし、米はササニシキ限定、野菜などの具材は国産にこだわり、笹の葉で区切り層にして丁寧に漬け込んでいます。「若い人には馴染みがないかもしれないが一度食べてみてください。酸っぱさより甘みの方が強く、クセがなくとても食べやすいですよ！」と永田さん。

そんな永田のハタハタすし（500g）を５名様にプレゼント！皆さまのたくさんのご応募お待ちしています。

**永田屋**（にかほ市平沢字中町43）
時　間：8:00～17:00
定休日：元日を除き営業
問合先：☎35－2943



※写真はイメージです。
実際の内容量ではありません。

| | |
|---|---|
| 応募方法 | ハガキ、ＦＡＸ、ＱＲ（申し込みフォーム） |
| 記入事項 | 発行号、郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、『広報にかほ』への意見・感想等を記入 |
| 応募期限 | 7月27日(月) |
| 応 募 先 | 〒018－0192<br>にかほ市象潟町字浜ノ田１<br>にかほ市役所<br>「広報にかほプレゼント係」<br>FAX　0184－62－9013　QRコード |

※当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

Mt.Chokai & Tobishima Island Geopark
鳥海山・飛島ジオパーク

## 鳥海山・飛島ジオパークリレーコラム
# ～日本海と大地がつくる水と命の循環～ vol.67
### 『白井新田の湿地群とハッチョウトンボ』

遊佐町文化財保護審議会
委員 **菅原 善子** 氏

遊佐町の白井新田あたりの表層は、鳥海山の豊かな降水が運んできた様々な大きさの礫が堆積してできています。そして底には水を通しにくい層があると推測されます。この堆積物の層は水を湛え、南麓にはめずらしく湿地が点在しています。

多くの湿地は、戦後の高度成長期に利用できる土地にするために開発され、湿地の動植物は生息地を失いました。遊佐町でもハッチョウトンボは絶滅したとされていましたが、戦時中に石油の試掘をした跡地に浸み出した地下水がつくった湿地で、かろうじて生き残っているのを遊佐小学校の先生たちが1973年に確認しました。生息地は、繊細な印象のイトトンボ、羽音をたて電池じかけで動いているかのようなヤンマ、イモリにモリアオガエル、さながらサンクチュアリのようです。食虫植物のモウセンゴケにハッチョウトンボが捉えられ、ありのままの自然が垣間見える場でもあります。

しかし、ここは浸み出してくる地下水だけでは乾き気味で、温水溜池から水を引き、陸地化を防ぐための草刈りもしています。保全活動は、どのように手をかけるのがよいのか模索が続きます。

湿地群の中の石油試掘後のこの湿地は、土地の成り立ちと生き物とわたしたち人間の歴史と生活がリンクしていることを示しているようです。

▲白井新田のハッチョウトンボ棲息地